

《大学》

静岡大学

【授業パッケージ方式による就業力の育成】

取組の概要【1ページ以内】

I. 授業パッケージを核とする就業力育成（様式5—図1参照）

本取組では、個々の学生が卒業後の自らの職業生活を具体的にイメージし、そのために必要な資質能力を大学教育のなかで身につけることを可能とすることをめざして、（1）汎用的資質能力（2）専門的資質能力（3）実務的資質能力のそれぞれの要素を含む授業パッケージを提供し、それを核として就業力を育成する仕組みを構築する。

このうち、（1）に関連する授業科目は、「キャリアデザイン科目」「外国語科目」「情報処理科目」「理論的専門科目」「教養科目」等、（2）は、「教職等資格関連科目」「応用的専門科目」等、（3）はインターンシップや各種実習科目及び産業界等での現場経験豊かな講師による講話、指導等である。

この授業パッケージの主な特徴は、次の4点である。

- ①特定の学問体系を前提とした概論、特論、演習、実験等からなるいわば積み上げ型の授業科目群とは異なり、特定の職業とそこで求められる人材像を具体的にイメージした場合に必要な資質能力を育成する授業科目をパッケージしたものであること。
- ②具体的職業生活と結びついた限定された科目数からなるパッケージとして提供されるため、それらの授業科目を履修することによって獲得される資質能力と目標となる人間像との関係が比較的明白であり、学生が自らの成長を実感できること。
- ③インターンシップ等を通じた具体的職業生活についての体験が、この授業パッケージと一体のものとして提供されるため、こうした体験やそれを通じて獲得される実務的資質能力が大学における学びと有機的に結合し、より深められること。
- ④授業パッケージの履修を核として、学生がパッケージに含まれる授業科目以外の大学のカリキュラム全体についても職業生活との結びつきを意識しながら、自らの就業力育成につながる履修計画を立てることができるようになること。
- ⑤授業を担当する教員にとっても、このような授業パッケージとの関連において自らの授業科目を位置づけることによって、その授業内容を、学問体系という見地からのみでなく、学生の職業生活につながるものという見地から絶えず改善をはかる契機となること。

II. 教育体制と学生支援体制の連携（様式5—図2参照）

授業パッケージの計画、実施、評価及び学生に対する履修指導には、本学の教育体制の中心である「大学教育センター」内の「キャリアデザイン教育・FD部門」と、これまで分散してきた学生支援に関する諸機能の統合により、新たに学生支援体制の中核となる「学生支援センター」内の「学習支援・キャリアサポート部門」が、両部門に担当副学長を加えた「キャリア教育推進会議」の下で緊密に連携して取組む。

これまでの学生に対する就職支援は、学部3年生を主な対象とする企業関係者による各業界の動向分析やエントリー・シートの作成、面接への対応等のテクニカルな指導、キャリア・カウンセラーによる個別相談など狭い意味での「就活支援」に偏りがちであった。しかし、このような教育体制と学生支援体制の連携によって、学生の卒業後の職業生活と結びついた授業パッケージを中心に据えたカリキュラム改革や履修指導といった、4年間の学部教育全体を貫く教育面での就業力育成を背景に、単なる「就活支援」とは区別される、より深く持続的な本来の意味でのキャリアサポートを、学生支援という側面においても実施することが可能となる。

《大学》

三重大学

【自他共に成長を目指す幅広い職業人の養成】

取組の概要【1ページ以内】

本取組は初年次から卒業後まで自他共に成長を目指す社会性と、4年間を通じた職業教育に資するカリキュラムにより、学生が主体的に学習目標を設定して実践知を獲得する自立性を身につけさせる感性豊かな職業観・社会観涵養に結びつくキャリア教育プログラムと就業支援体制を構築しようとするものである。本取組では、三重大が全学的に展開してきたPBL（問題発見解決型学習）を基盤として、入学から卒業まで、継続的な自己省察と目標設定を行わせるカリキュラム整備を進めるとともに、学内を自立性と社会性を発揮する実践の舞台としてのアカデミックコミュニティとして整備し、教職学生協働の全学的学生支援・就職支援体制を構築する。

学生は、入学時において、共通教育全学クラス指定科目「4つのカスタートアップセミナー」を受講し、その中で、小グループによるPBLを通して、三重大の教育目標である「4つの力」（「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」）を理解し、能動的学習への転換を行う。毎回、少人数のグループ学習を繰り返し、その中で、自他共に成長する姿勢を養う。また、自己省察を繰り返し、自ら学習課題を設定するなどのポートフォリオの作成を通して学習履歴を蓄積する訓練を徹底する。教育目標であるこの「4つの力」は、入学から卒業まで、受講するすべての授業ごとに行われる振り返りアンケートと、毎年経年的個人別に包括的に振り返る修学達成度調査を通して、学士課程を通して継続的に訓練される。大学としては、学生の振り返りに基づいたきめ細かな指導を行うとともに、それらのデータを総合的・多角的に分析し、授業改善、FD、カリキュラム改革を進める。共通教育では、同セミナーをベースとしたキャリア・ピアサポーター資格教育プログラムを実施して、キャリア力形成のための初級・上級資格（学内資格）取得を促す。初級資格必修科目である「キャリアプランニング」で養われたキャリア形成の明確な目的意識を基盤として、学内のイベントや運営を、学生主体に運営する授業「キャリア実践」を行う。上級資格向け必修授業である「学習支援実践」や「こころのサポート」を通して、産業界で必要とされる他者の成長を導く訓練をする。上級資格取得者は、SA(Student Assistant)として授業補助や修学・生活支援補助にあたり、学生が学生の学習を支援する。資格取得した学生は、ピアサポーター学生委員会を通して学内外の多様な活動に関わるようになる。このようにして教職学生協働の学生支援体制を構築し、学内にピアサポートを通じた多様な結びつきを生み出す。

専門教育では、産学との結びつきを通じた実践知育成を導入するために、社会連携教育推進室を設立し、企業出身の教員・現役技術者による実践的専門科目を導入し、地域インターンシップを拡充するとともに、国境を越えて結びつく力を養う国際インターンシップを整備する。また、大学での学習成果を地域に公開するため、学生が主体となって企画運営するアカデミックフェアを拡充する。

これらのキャリアと結びついた実践知教育体制は、初年次教育を担う共通教育センターと、専門教育を担う社会連携教育推進室の連携によって企画され、教務委員会を介して全学的に実施される。その教育効果は高等教育創造開発センターによって検証される。就職支援は、教育担当副学長のもと、教員によるキャリア支援センター、職員による就職支援チームが一体となって、全学的な体制を強化する。

キャリア教育や就職支援体制の評価は、学生の満足度や就職先の評価などのデータをもとに、外部委員を含む評価委員会によって検証され、改善が行われる。

《大学》

滋賀大学

【複眼的フィードバックによる就業力育成】

取組の概要【1ページ以内】

本学の就職決定率については社会から高い評価を受けているところであるが、いうまでもなく、リーマン・ショック後の世界経済状況は厳しい。本学における就職内定状況等も、本年度を含め、厳しい結果が予想される。こうした外的要因の変化に加え、学生気質の変化、進路の多様化、女子学生の比率の増加、あるいは就職活動における情報通信技術（ICT）の活用などから、従来型の就職支援とは異なる要素が求められてきている。

本取組においては、国内外の経済状況の変化、学生の気質や進路の多様化、そしてICT環境の変化など、これらの変化をふまえた有機的な就業力育成ならびに就職支援活動の再構築が急務であるとの認識のもと、以下のような複眼的取組を行う。ここでいう複眼的とは、①従来型支援の充実に加えて、新しい時代に対応した新規性に富む取組を含むということ、②これまで就職指導対象として受け身であった学生自身が企業、社会、そして自分自身を客観的、主体的に捉えるということ、という二重の意味を持つ。

まず、従来1名であった就職支援担当教員の機能を分化し、「キャリア・コーディネーター」と「企業研究・就職支援」をそれぞれ主として担当する2名体制とする。その上で、キャリア・コーディネーター機能を担うキャリア・コーディネーターを中心に初年次教育等の就業力に関わる基礎教育を充実させ、自立した社会人としての基盤作りを行う。また、企業研究・就職支援スペシャリストとの連携を図りながら、単なるエントリー・シートの書き方等の指導ではなく、国内外の状況変化に迅速に対応できるように、実際の企業のIR情報などをもとに実践的な就職指導を行う（PEST分析等の活用）。また早期からSPI、CAB、GAB、IMAGES、TOEICなどについて徹底した知識提供を行う。こうした取組により、小手先の技術ではなく、3～4年の時間をかけて、じっくりと実質的に自力で将来設計をできる力をつけさせる。

次に、実践・体験型科目の充実として、これまで実施してきた同窓会・企業・経済団体と連携した経済人によるリレー講義の開講回数を増やすとともに、実際に当該企業を訪問学習する機会を導入する。この際、単に企業訪問するだけでなく、その際に経営者や従業員にインタビューをしたり、作業風景を撮影したりしたものをまとめて、企業研究（職業研究）の教材開発を行うことを新規に追加する。企業訪問終了後に、これを教材として再度企業研究を行い、知識と体験の定着化を図るほか（体験のフィードバック）、参加していない学生、例えば次年度以降の学生にも企業研究の材料として提供する（他の学生へのフィードバック）。

さらに新たな取り組みとして、模擬面接をビデオで撮影し学生自ら検証できる設備および体制を導入する（客観化によるフィードバック）。また、学生が面接官として模擬面接を行うなどして、採用側の立場に立つことによって、企業がどのような人材を必要としているか、あるいは企業はどのような視点で志願者を見ているのか、などについて多角的に学習できる機会を提供する（相手の立場からみたフィードバック）。

これらプログラムの実施にあたっては企業、経済団体、同窓会との連携と支援を得る。

また、事業の評価にあたっては第三者評価を得ることとし、特に同窓会は、本学の就職支援活動の結果が集約されたものであり、厳しくかつ建設的な助言・評価を得る事とする。

《大学》

奈良女子大学

【女性の生活様式を考慮したキャリア教育】

取組の概要【1ページ以内】

[趣旨]

従来個別に実施されてきた教養教育、専門教育、キャリア教育、就職ガイダンス（課程外）を体系化し、それらを**統合キャリア教育**として本学の教育の中心にすえる。更に新しい職業分野に対応すべく、学生自らが生涯のキャリアパスをイメージできるよう**在宅起業**等の新しい**女性の生活様式**（ライフスタイル）、企業人女性のキャリアパスを学ぶことができる教育体制を整備する。これにより学生の女性としての社会的・職業的自立に繋がる就業力を育成する。

[取組の内容]

- i. 教育・学生支援統括室の指導の下で、学生に関する学内組織を一本化し、就業力育成の観点から新たに統合キャリア教育の体系化を図る。更に就業力に関する教育目標を学生に明示して、学生自ら就業を意識した履修計画を立てることのできる体制を整える。
- ii. 一般の職業人・企業人のみならず女性の在宅起業等からも直接そのライフスタイルを学ぶことで、学生が就業力を身に付けるとともに新しい職業分野や職業形態を自ら発案できるよう手助けをする。更に、個々のGP等の活動を全学で統括し、本学大学院GPのキャリア教育活動を学部まで拡げ、学部学生が女性のライフスタイルを含めた生涯のキャリアパスをイメージできるよう支援する。
- iii. いままで独立に実施され成果を挙げてきたGPを統合キャリア教育の中に組み込むとともに、専門教育に新たなキャリア関係科目を導入する。更にそれらを含めたキャリア専門教育科目群を設置することで、キャリア関係科目の改革を実施する。これは専門教育においても直接的に学生の社会的・職業的自立を促すことに繋がる。

これらにより女性のライフスタイルを実地に学ばせ、女性としての社会的・職業的自立を促す統合キャリア教育を実施する。

[取組の実施体制等]

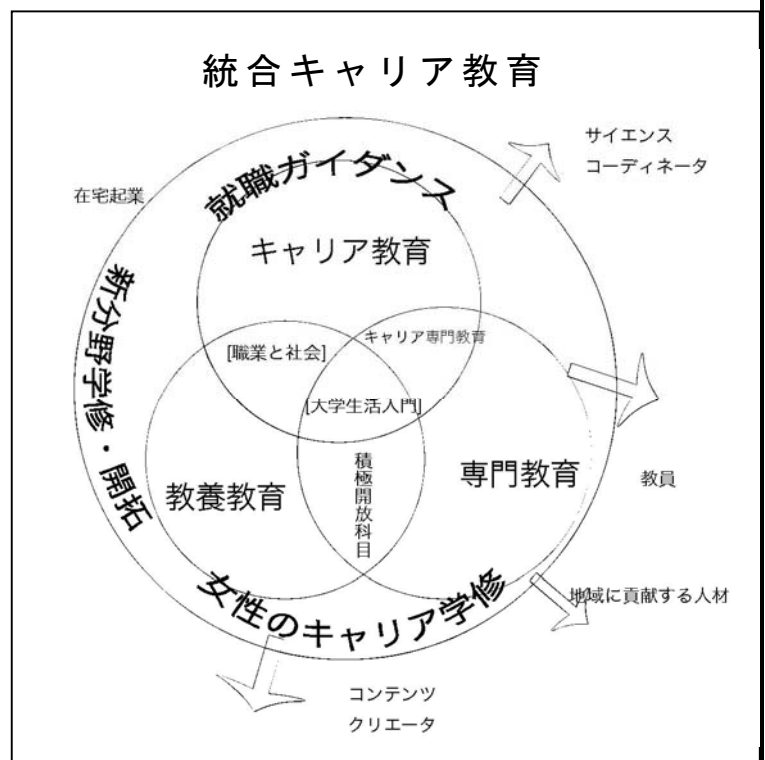
学長のマネジメント体制の下、教育担当の副学長を室長とする教育・学生支援統括室が取組の実施本部となる。教育・学生支援統括室の指導の下、各学部にて実行組織となる「**統合キャリア教育改革チーム**」を設置する。このチームが教育計画室、学生生活支援室、就職支援室、社会連携センター等の協力により取組を実施する。

[産業界との連携体制]

社会連携センターを教育・学生支援統括室に組み込むことで産業界との連携体制を整備する。

[評価体制]

教員と職員が対等の立場で室員となるファカルティ・ディベロップメント推進室にキャリア教育ワーキングを設置し取組の評価を行う。



《大学》

和歌山大学

【学生の人生の支援と自立・自律プロジェクト】

【取組の趣旨・目的】

和歌山大学は、大学の基本的責務を「学生の人生の支援」であると考え^{注1)}。そして、本取組を学生が4年間の大学教育のなかで「就業力」を培い市民・職業人として社会に参加していくプロセスとして捉える。学生が「働く」ことへの意識と意欲を高め、他者と協調しながら自らの人生を切り開く就業力あふれる人材を育成することを目的とする。就業力に「教養・基礎学力」「主体性(意欲)」「課題発見・解決能力」「豊かな人間性」の4つの要素があると考え^{注2)}。そこで、教職員・学生・地域が協働することによって、学生の自立・自律力強化を支援する事業を展開する。

注1) 山本学長の教職員に対するメッセージより

注2) 中教審答申(2008)で示された学士力強化のための参考指針を参考に本学で定義

【具体的な取組】

教養・基礎学力の育成【1年生】：大学の学びのなかで、Plan-Do-Check-Actサイクルを学生自らが廻すことができる「学びのデザインシート」を導入するとともに、履修指導を徹底する。また、スチューデントリーダーによる学生の学習支援も実施する。**(Project A)**

主体性(意欲)の育成【2年生】：教養教育で体系的なキャリア教育を実施し、履修モデルを提示する。一方、キャリア教育コーディネータ研修の実施、産業界のニーズ把握、およびFD・SDにつなげてキャリア教育と学生支援を高度化する。**(Project B)**

課題発見・解決能力の育成【3年生】：実践型キャリア教育を強化し、インターンシップを拡充する。レベル設定、事前研修と事後の自己分析とアウトプット等を実施する。**(Project C)**

豊かな人間性をはじめとする就業力あふれる人材育成【4年生】：下級生の学びとキャリア教育を支援できるスチューデントリーダーを育成し、ピア・エデュケーション機能を確立する。学生の自主性・自律性を育む一方、地方国立大学ならではの利点を生かした、学生一人ひとりに届く就業力支援を実現する。**(Project D)**

【この取組の見込まれる成果】

- 学士課程教育の構築と学士力・就業力育成を支援する教育プログラムを実現し、学生の自立・自律力を強化できる。
- 学生リーダーの育成と中間層のボトムアップが可能となる。また、「立ち遅れ層」の支援や社会の隙間に落ち込む可能性のある退学者を減らす効果も期待できる。
- 全学の教職員が学生目線で士気を高め大学教育の改善・改革に取り組むことにつながる。

